



西九州大学子ども研究ネットワーク

NCNニュースレター

あすなろ棟について ～三光幼稚園・保育園へのインタビュー～

三光幼稚園の福元芳子副園長先生に取材し、園内に建てられた「あすなろ棟」について教えていただきました。

「あすなろ棟」はどのように利用されていますか？

3階建てのあすなろ棟は、1階部分に保育機能施設として三光ナースリーの保育室（定員30名）、多目的プレイルーム、給食配膳・洗浄室があり、2階は全面長時間保育に対応した保育室となっています。3階は、茶道のお稽古室を兼ねた和室、多目的に使える広い研修室として利用できます。



以前に比べて「あすなろ棟」ができて何か変化がありましたか？

以前の建物に比べ、広さは約5倍になり、三光幼稚園に不足していた機能を備えたせいか、施設に余裕ができ、保育に広がりが見られます。1階の多目的プレイルームは、早朝は預かり保育、そのあとは制作や絵画活動等に利用しています。ナースリーや2階は保育園と同等の1人あたり面積や床暖房、男女別のトイレ、防犯カメラ等を設置しているおかげで、保育者がゆとりと安心をもって保育に携わっています。



子どもたちのお気に入りの場所はどこですか？

日中はプレイルームです。また、すべての棟をウッドデッキでつないだため、冬は日向ぼっこ、夏は西の道は風が通り抜けるので涼しく、そこで秘密の遊びが展開されています。

今後の利用方法等について

3階の2つの部屋を使って、学童保育を始める予定です。詳細は現在検討中です。三光幼稚園で育まれた力がさらに伸ばせるような環境を準備して始めたいと思います。

あすなろ棟の見学申し込み方法について

見学を希望される方は、事前に日時等ご相談下さい。

（問い合わせ先）西九州大学附属三光幼稚園
TEL 0952-31-0753
FAX 0952-30-2941



第13号

発行日2015年10月

目次

あすなろ棟について	1
発達障害児支援サークルについて	2
研究室訪問について	3
NCNよりお知らせ	4



発達障害児支援サークル「ウール・アンジュ」ができました！！



← 北山キャンプでの1コマより

「子ども発達支援士」という言葉を聞いたことがありますか？
 佐賀県5大学では、発達障害などのある子どもへの支援力や幼児教育に対する情熱をもった保育者養成に取り組んでいます。上記の資格は“大学コンソーシアム佐賀”が認定する資格であり、本学においても、この資格をとるために頑張っている学生が多数います。
 この流れを受けて、このたび幼児保育学科の専攻科 保育福祉専攻のメンバー有志を中心に、発達障害児支援サークルが立ち上がりました。今回はそのメンバーに話を聞き、最近企画された障害児のレクリエーションキャンプの様態についてご紹介したいと思います。答えてくれたのは、専攻科の青山可菜子さん、石橋茉莉さん、亀山紗己さんです。

Q. このサークルは、どんなサークルですか？

A. 障害のある子ども達との療育活動（学内療育ほっぽ）やキャンプ、土曜教室（保護者主催の団体）への参加を通して、障害児やその保護者との関わり方などを学んでいます。

Q. 団体名の「ウール・アンジュ」とはどういう意味ですか？

A. フランス語で、直訳すると「幸せな天使」という意味です。子供たちに幸せになってもらえるようなサークルにしたいと思い、命名しました。

Q. 今回、サークルで企画したキャンプの様子を教えてください。

A. 基本的にはサークルメンバーで、全体のスケジュールや役割決めといった企画・運営を担当しました。そして、具体的なレクリエーションの中身は2年生スタッフが中心となって考えてくれました。また、リトミックにも挑戦しました。このキャンプは「発達支援士」の支援実習の一つでもあるため、受講者も多数参加しています。そして今回は特別に、学内療育ほっぽに参加されている子どもたちだけでなく、私たちサークルがボランティアとして参加している団体からも参加されました。学生は32名、参加家族は9家族（29名）で、多種多様な顔ぶれでした。

Q. このキャンプでよかったこと、楽しかったことを教えてください。

A. 企画は楽しくて有意義な時間でした。キャンプで子ども達と関わるのは初めてだったので不安でしたが、子ども達の笑顔がたくさん見れ、保護者の方からお誉めの言葉をいただいたので、やって良かったと思いました。事故やケガが無く終え、いいキャンプができたと思います。

Q. では、大変だったこと、辛かったことはありましたか？

A. スタッフ全員がキャンプは初めてで、不安と焦りでいっぱいでした。また、空き時間や放課後を使って企画・運営を考えるのも大変で、情報の伝達・共有が把握できていないことがありました。キャンプ中は”わからない”と発言するのは禁止で、自分の創造力が試されていたのだと思います。

Q. このサークルに参加して、自分の考え方や行動が変わったことなど教えてください。

A. 子ども達に合った関わり方が、とても大事だと改めて感じました。また、責任を持って最後まで行うこと、何が起きても対応できるように準備をしておくことが大切だと感じました。実習でよく言われていた「報告・連絡・相談」の重要性を改めて感じ、優先順位を自分で決めて行動する力が身に付いたらいいなと思います。

1日目	遊具準備・ミーティングなど
2日目	利用者受付・アスレチック 水遊び・野外炊飯 保護者情報交換会など
3日目	レク活動・退所



研究室訪問（飯盛啓生先生のご紹介）

2015年4月に子ども学部子ども学科に着任された、飯盛啓生講師にインタビューし、環境問題及び環境教育について教えていただきました。

身近な環境問題

地球温暖化、PM.2.5、水質汚染など、色々な環境問題が全世界の人類共通の問題であることはいまでもありません。しかし、これらは個人単位では解決できないということも現実です。まず身近な「環境問題」について考えてみたいと思います。

生活排水による汚染



戦後の復興、高度経済成長を経て日本は発展してきましたが、同時に環境問題も発生しました。

右の表に家庭から出る生活排水の種類と、魚が住める水質になるまでに必要とされる水の量を示しました。

この結果から、汚れた水が少しでも自然界にそのまま流れ出すと、浄化されるまでに大量の水が必要なことがわかります。

また、水は生活排水だけでなく、ごみを捨てることによっても当然汚れます。実際に川をみても、ゴミ、ジュースの空き缶などが捨てられているのを度々目にします。こういったことは水の環境を悪化させ、結果的にその水を利用する我々に返ってくることになります。

汚れのもととなる排水(15ml) (スプーン大きじ1杯)	魚が住めるように うすめるための水の 量 (l)
米のとぎ汁	9
使用済み油	2997
しょう油	450
味噌汁	105
日本酒	606
牛乳	234
ラーメンの汁	72
おでんの汁	222

環境教育による啓発



環境教育は人間教育と理科教育(科学教育)に大きく関わっています。「三つ子の魂百まで」という諺がありますが、環境教育も、幼児期からの習慣付けが大切であると思います。

また、幼児期からの環境教育のアプローチが大切ではないかと思います。飲み残しのジュースなどを川に捨てること水質の汚染につながります。「三尺流れれば水清し」ということわざがあります。これは川は流れている間に自然の浄化作用によってきれいになる働きがあるということを表していますが、それにも限界があります。

水の汚染のメカニズムは化学的な内容になりますが難しいものではありません。

学生は授業内容をしっかり理解し、それぞれの学年に合った教育方法によってわかりやすく説明し、科学の楽しさを伝えて欲しいと思います。

下水道の歴史

環境保全の手段の一つとして下水道は重要な役割をしています。下水道は中世ヨーロッパ等で設置されるようになりましたが、当時は汚水をすべての河川に流していました。産業革命以降、排出される汚水の量はさらに増加し、その結果、ヨーロッパの大都市を流れる河川の水質は悪化しました。20世紀以降になると下水処理の技術が確立され、少しずつ河川の汚染の状況も改善されていきました。

子ども研究ネットワーク

発行
西九州大学子ども学部 総合研究室

〒840-0806
佐賀市神園3丁目18-15

電話 0952(31)3001
FAX 0952(31)3003
Email: nky_kodomo@nisiky-u.ac.jp

新しい子ども学研究と
教育の実践がはじまります

NCNよりお知らせ

●西九州大学グループ 第3回表現フェスタ開催

以下の日程で西九州大学グループ第3回表現フェスタを開催します。
お誘い合わせの上、是非ご来場ください。

1. 日時:平成27年12月20日(日) 開場12:30/開演13:00
2. 場所:佐賀市文化会館 中ホール ※入場無料・託児あり
3. 演目
第1部:三光幼稚園・三光保育園 年長児の器楽合奏
第2部:西九州大学短期大学部 第42回幼児保育学科実技発表会
第3部:西九州大学学部生中心による和太鼓・コーラス吹奏楽
※詳細は短期大学部幼児保育学科ホームページにて



●平成27年度子どもミュージアム開催スケジュール

学校法人永原学園 西九州大学 平成27年度「子どもミュージアム」開催のお知らせ

「子どもミュージアム」とは、「子ども文化の創造」をテーマに、体遊び、歌、おはなし、科学、身近な自然など、子どもの成長に必要なものを、人と人のつながりのなかで体験できる遊びや環境を提供するプログラムです。今年度は以下のように開催します。子どもたちはもちろん、どなたでも参加できます。
みなさんと楽しい時間を過ごしましょう。



◆詳細につきましては、西九州大学のホームページでご確認いただけます

◆申し込み・問い合わせ先
西九州大学子ども学部
総合研究室
0952(31)3035

回	期日	テーマ	内容	対象	申込締切日
6	10月17日(土) 10:30~11:45	『お話の世界で遊ぼう』 子ども学科 香川せつ子	絵本や紙芝居を中心に、手遊びや歌、踊りも交えて、ファンタジーの世界をみんなで一緒に楽しみます。	乳幼児~小学2年生 20組40名 (1年生まで保護者同伴) 表現スタジオ	10月9日(金)
7	10月31日(土) 10:30~11:45	『プラ板でバッジなどのアクセサリを作ろう』 子ども学科 前村 晃	プラ板で好きな動物や花のバッジを作ります。時間が余ったら、他に作って遊ぶことをします。	幼児~小学2年生 制限なし (保護者同伴) 美術工芸室	10月23日(金)
8	11月12日(木) 11:00~12:00	『わくわくあそびランド②』 子ども学科 田中麻里	いろいろな材料で、おもちゃを手作りしてみんなであそびましょう。	乳幼児~幼児 20組40名 (保護者同伴) 表現スタジオ 他	11月6日(金)
9	11月26日(木) 11:00~12:00	『みんなであそびあそぼう』 子ども学科 櫻井京子	みんなでパネルシアターを観たり、手あそびや身体あそびをして、楽しく過ごしましょう。	乳幼児~幼児 15組30名 (保護者同伴) 表現スタジオ	11月20日(金)
10	11月28日(土) 10:30~11:45	『植物の色のふしぎ』 子ども学科 飯盛啓生	野菜や花には様々な「色」があります。これらの色を楽しく調べ、科学のとびらをあけましょう。	小学1年生~小学6年生 20名 (1年生まで保護者同伴) 理化学実験室	11月20日(金)
11	12月5日(土) 10:30~11:45	『“かず”や“かたち”であそぼう』 子ども学科 川上 貴	数や形を使っているいろいろなあそびを体験します。算数のおもしろさを感じてもらえたらうれしいです。	幼児~小学4年生 制限なし (1年生まで保護者同伴) 表現スタジオ 他	11月27日(金)
12	1月16日(土) 10:30~11:45	『世界のおそびであそぼう』 子ども学科 松井亮行	体やモノを使ったあそび、踊り、ゲームなどで世界の子どものあそびを実体験しましょう。	幼児~小学4年生 20組40名 (1年生まで保護者同伴) 表現スタジオ	1月8日(金)
13	1月23日(土) 10:30~11:45	『親子でつくろう』 子ども学科 三島正英	おもちゃや、楽器、ダンスなどを親子で創って楽しもう。	幼児 制限なし (保護者同伴) 表現スタジオ 他	1月16日(金)
出張	10月17日(土) 10:30~11:45	『世代間交流(遊び)』 子ども学科 赤星まゆみ	地域の幼児・小学生と、老人会をはじめとした地域の人々との世代を超えた、楽しい交流の時間を作り出したいと思っています。	幼児~小学6年生 制限なし (1年生まで保護者同伴) 学外企画	10月9日(金)

